

令和6年度・7年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



南九州市立颯娃中学校

目 次

I はじめに

- 1 南九州市の概要 1
- 2 校区の概要 1
- 3 学校の概要 1

II 研究の概要

- 1 研究主題 2
- 2 主題設定の理由 2
- 3 研究の目標 2
- 4 研究組織 3
- 5 租税教育全体計画 3
- 6 租税教育年間計画 4

III 研究の実際

- 1 事前アンケートの実施・分析 4
- 2 社会科授業での実践 7
- 3 生徒会活動等と連携した租税教育の実践 13
- 4 学力向上の取り組み 13
- 5 事後アンケートの実施・結果 14

IV 研究のまとめ

- 1 研究の成果 16
- 2 研究の課題 17

V おわりに

I はじめに

1 南九州市の概要

南九州市は、平成19年12月1日、知覧町・穎娃町・川辺町が合併して誕生した。薩摩半島の南部に位置し、東西約22km、南北約30kmで、県都鹿児島市の南西約30kmのところにある。南は広大な東シナ海を臨み、東は指宿市、西は枕崎市・南さつま市に接しており、南薩地域の地理的中心に位置している。面積は、357.91平方キロメートルで県全体の約4.0%を占めている。現在の人口は31,332人(令和6年度)、世帯数は16,106世帯である。



四季を通して温暖で豊かな自然に恵まれており、この恵まれた環境で「お茶」や「さつまいも」がさかんに栽培されている。特に、「知覧茶」ブランドで出荷される「お茶」は、農林水産大臣賞や産地賞を数多く受賞するなど品質の高さについても折り紙つきで、市内の至る所で栽培されている。

地域の歴史的な魅力として、川辺町では古くから受け継がれてきた伝統的工芸品である川辺仏壇をはじめ、清水岩屋公園には国内最大級の摩崖仏が存在する。知覧町には、第二次世界大戦末期に陸軍特攻基地が置かれたことから、陸軍特別攻撃隊員の貴重な資料を保存公開する知覧特攻平和会館があり、戦争の悲劇を風化させることなく、後世に引き継ぐための重要な役割を果たしている。学校での平和学習、企業研修としての利用も多く、改めて命の尊さを考えることのできる唯一無二の場所でもある。このような魅力ある自然・歴史をもとにしながら南九州市の将来像として「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち 南九州市」を掲げ、地域の更なる発展や新たな魅力ある街づくりを推進している。

(南九州市HP参照)

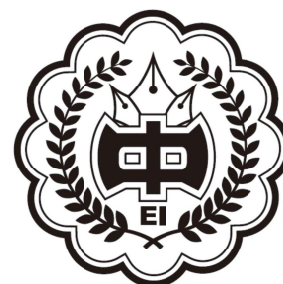
2 校区の概要

本校がある穎娃町は、東西に延びる海岸線が16kmに及び、水平線はるかに屋久島、竹島、硫黄島、黒島などの島影を一望におさめることができる。広大な茶畑が一面に広がり、全国でも有数のお茶の産地である。また、戦後の土地改良事業等の推進により広大な南薩台地のコラ層が排除され、良質な土壌の畑作地帯が出現し、畑かん事業も相まって一大食料生産基地となっている。

豊かな自然環境や資源を活かしたまちづくりも盛んに行われている。南九州市と地域が連携して活動を行っている地域おこしでは「穎娃おこそ会」が「九州観光まちづくりAWARD2023 にぎわい部門 金賞」を受賞している。日本地図作成のため全国を実測した伊能忠敬が「天下の絶景」と絶賛した景勝地である番所鼻自然公園を観光スポットとして整備したり、空き家を観光施設として再生させたりするなど、多くの観光客が地域を楽しめるような取組が町ぐるみで実施されている。

3 学校の概要

2019年(令和元年)に旧穎娃中学校、旧青戸中学校、旧別府中学校が統合し、6つの小学校から生徒が集まる新生の穎娃中学校が開校した。令和7年度の生徒数は226名、学級数は通常学級6クラス、特別支援学級4クラスである中規模校となっている。「自律」「鍛錬」「友愛」の校訓のもと、「チーム穎娃中・穎娃中プライド～凡事徹底 未来へ向けて」をスローガンに、生徒・教師・地域が一体となって生徒一人一人が誇りを持てるような学校づくりを行ってきた。



校章

特に、生徒会活動が盛んであり、毎年1学期には南九州市の顛娃中学校・川辺中学校・知覧中学校の全校生徒が一堂に会す「三中フェスタ」が実施されている。有名人による夢の懸け橋講演会が実施されたり、それぞれの学校の特徴をPRしたりしながら、更なる学校の成長のために他校の取組等を参考にすることも設けている。また、スポーツが盛んな地域ということから、部活動に熱心に取り組む生徒も多い。男子バレーボール部や野球部、陸上部、剣道部はこれまでの県大会でも数々の大会で輝かしい成績を収めてきた。生徒会活動や部活動で培われた自主性・主体性をもとに、生徒が自ら進んで学校行事を作り上げていく姿も見られている。

II 研究の概要

1 研究主題

租税教育を通して、税に対する理解と興味・関心を高め、社会を支える一人の主権者としての自覚を芽生えさせ、主体的に社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。

2 主題設定の理由

私たちの生活は様々な側面で多くの税によって支えられている。年金、医療、介護、教育といった社会保障制度をはじめとし、道路や橋などの公共財の整備や警察、消防、自衛隊など私たちの生活を支える国家公務員・地方公務員の給与もすべての国民から集めた税金によって大半がまかなわれている。このことから、税は私たちの生活にとって必要不可欠なものであるといえる。

しかし、これまでの本校における社会科の授業を実践していくうえで、本校の生徒の中には税金の意義や役割を正しく理解できていなかったり、国民から集めた税金をどのような組織がどのような形で使用していたりするのかについて、あまり興味・関心を示さない生徒も多くいることが課題だと考えてきた。また、国民の代表である国会議員が中心となって国家の予算を作成したり、議論したりすることは知っているものの、国会議員を選出する選挙に対する興味・関心の低い生徒も多い。これは、本校生徒だけにかかわらず近年の日本の選挙における若者の投票率をみても同じことがいえるだろう。実際に、令和3年に行われた衆議院選挙では全体の投票率が55.93%を記録したのに対し、10代の投票率は43.23%、20代の投票率は36.50%と平均を大きく下回っている。今後、少子高齢化がますます進展し、生産年齢人口の割合が減少していくことも踏まえると、これからの時代を支えていかなければならない中学校の生徒らが税への興味・関心をもち、そのうえで税に関する正しい知識や理解を深め、選挙で自分の意志を国政や県政に反映させようとする等、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成することが求められるだろう。

そこで、租税に関する教育を通して、税への関心を高め、正しい理解を深めるとともに、選挙の意義と役割を理解させることで、社会を支える一人の主権者としての自覚を芽生えさせ、主体的に社会に貢献しようとする意欲や態度を育成しようと考え、この主題を設定した。

3 研究の目標

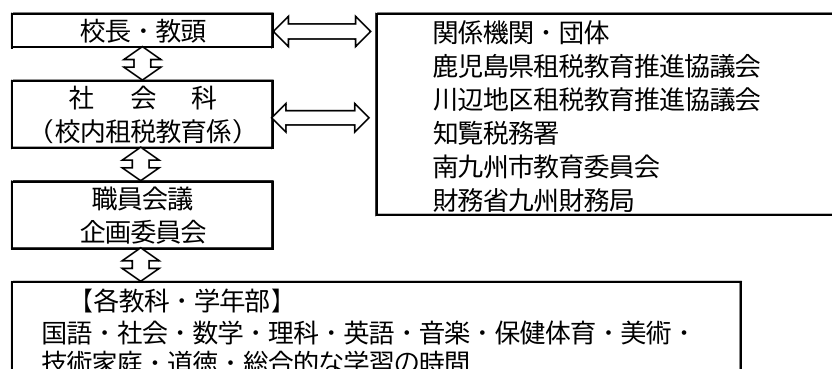
ア 社会科の授業実践や租税教室、税に関する作品の作成等で租税に関する学習を行い、税の役割や意義を正しく理解する。また、税についての興味・関心を高め、自分たちの生活に欠かせないものであると理解する。

イ 租税に関する授業を実践し、そのうえで選挙の役割や意義も理解する。主権者として有

権者になった際に、自分の意志を政治に反映させようとする主体的な態度を育成する。

ウ 他教科や生徒会活動等と連携することで、より広い視点から租税に対する理解を深める。

4 研究組織



5 租税教育全体計画



6 租税教育年間計画

【令和六年度（二年目）】	4～5月	租税教育研究校委託状交付・租税教室打ち合わせ
	6月	研究主題の設定・計画案の作成
	7月	税に関する作品への取組（3年生：税に関する作文）
	9月	税に関する事前アンケートの実施・分析（1～3年生）
	10月	財政教育，税・選挙に関する社会科授業の実践，生徒会活動との連携
	11月	租税教室，第50回衆議院選挙における模擬選挙（3年生）
	12～1月	税に関する書籍の購入・事後アンケートの実施
	2月	本年度の研究のまとめ
	3月	第1回俳句講演会の実施（税の作成に向けて）
	【令和七年度（二年目）】	5月
6月		租税教室・税に関する事前アンケートの実施・分析（3年生） 第2回俳句講演会の実施（税に関する作文・標語の作成に向けて）
7月		税に関する作品への取組（3年生：税に関する作文 全学年：税の標語）
8月		実践研究のまとめ
9月		租税教育研究冊子の作成
10月		税・選挙に関する社会科授業の実践，生徒会活動との連携 「租税教育研究会」での発表リハーサル（職員研修）
11月		「租税教育研究会」での発表
12月		研究のまとめ（2年目）
1～2月		租税教育研究委嘱校としての取り組みの振り返り・まとめ
3月		来年度の租税教育の計画・確認

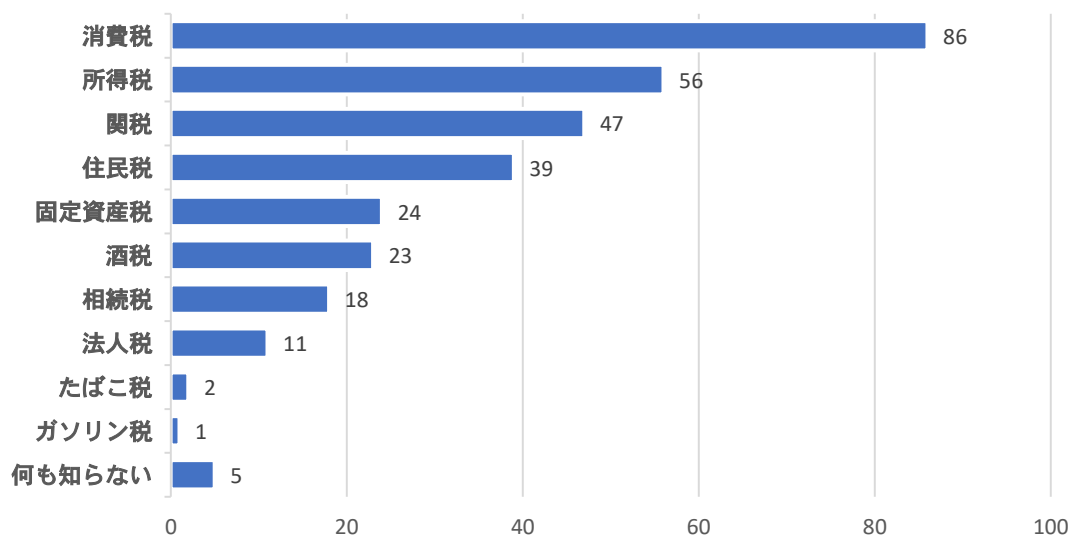
III 研究の実際

1 事前アンケートの実施・分析

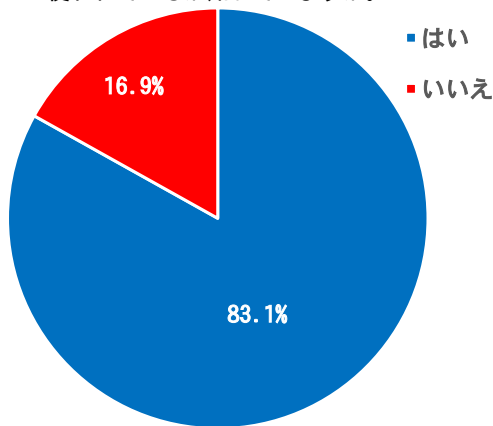
初めに，本校の全学年の生徒に対して税に関する理解・関心を問うアンケートを実施した。ここでは，このアンケート後に租税教育や財政教育，模擬選挙を実施予定であった3年生の結果を取り上げて分析することとする。

アンケート実施期間：10月1～8日 対象：第3学年（89名）

質問1 あなたが知っている税金にはどのようなものがありますか。説明できるものにチェックをつけてみよう。また，他に知っている税があれば記入してみよう。



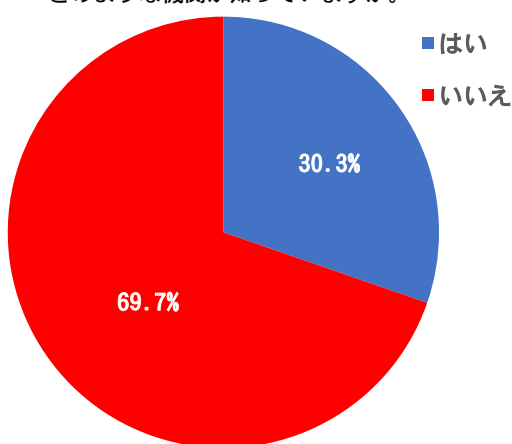
質問2 国民が納めた税金がどのようなことに使われているか知っていますか。



質問3 2で「はい」と答えた人に質問です。具体的にどのようなことに使われているのかわかりますか。〈一部抜粋〉

教科書 公務員の給料 学校 国家予算 防衛費
教育費 国の公共施設 社会福祉 年金
医療などのサービスやインフラ整備 救急車
道路の整備 政党の行政資金 等

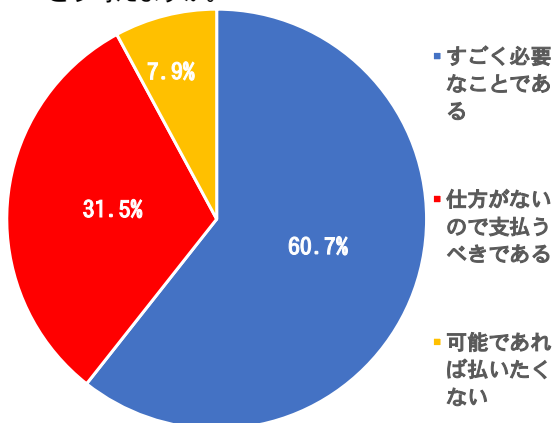
質問4 納められた税金の使い道を決めるのはどのような機関か知っていますか。



質問5 4で「はい」と答えた人に質問です。どのような機関が決められているのかわ知っている機関を書いてみよう。〈一部抜粋〉

国会・内閣・財務省・国税庁・内閣総理大臣

質問6 私たち国民が税金を納めることについてどう考えますか。



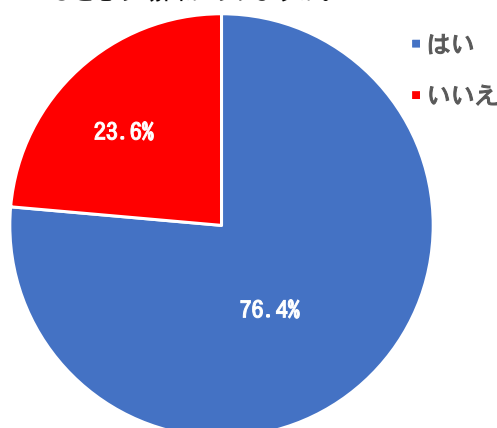
質問7 6で「すごく必要なことである」「仕方がないので支払うべきである」と答えた人に質問です。そのように考えた理由を教えてください。〈一部抜粋〉

- ・税金があるから今の暮らしがある
- ・決まりだから
- ・みんなが暮らしていけるような社会にするため
- ・税金をはらわないと便利に生活できなくなる
- ・税金が多いか少ないかで日本の未来が変わるから
- ・自分たちも税金によって学校に通えているから
- ・税金がなければ福祉への負担が増加したり、社会保障が受けられなくなったりするから
- ・安心して暮らせる 等

質問8 6で「可能であれば支払いたくない」と答えた人に質問です。そのように考えた理由を教えてください。〈一部抜粋〉

- ・自分のお金が無くなるから
- ・少子高齢化の影響で今後の税金が高くなるから
- ・政府がお金を管理すれば払わなくてもいいから
- ・一生懸命に働いたお金が半分以上取られるから
- ・自分で稼いだお金が他人に使われるのは嫌だから

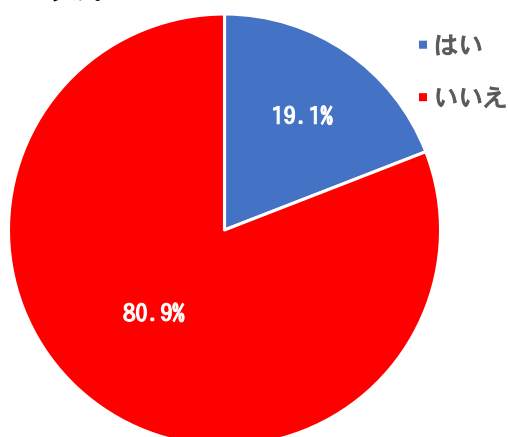
質問9 私たちの身近な生活のなかで税が役に立っていると思う場面がありますか。



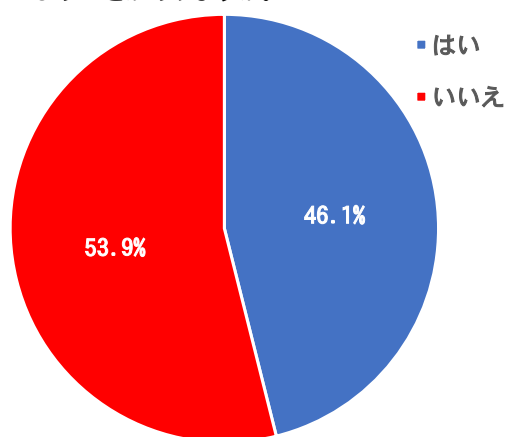
質問10 9で「はい」と答えた人に質問です。具体的に、どのような場面で税が役に立っていると思いますか。〈一部抜粋〉

学校・救急車・医療・道路・教科書・福祉
給付金・図書館に新しい本が増えている・公共施設
警察・公的サービスを受けるとき・公園 等

質問11 税について普段、家族と話をすることがありますか。



質問12 日頃から税に関するニュースや新聞記事を見るようがありますか。



以上のアンケート結果から次のことを分析した。

初めに、世の中にある様々な税に関して生徒らは多くの税を認識していた(質問1)。その中でも、消費税の割合が多いのは、日頃から生徒自身が納税者としてもものを購入する際に納めているものであるからだと考えられる。

質問2～4, 9, 10では、税に関する基本的な知識を確認した。多くの生徒が医療・教育・公共サービス等に税金が利用されていることを理解していたが、身近な生活の中でどのように税が使われているのかが理解できていない生徒も一定数いた。また、納められた税の使用用途を決める組織を理解していない生徒が半数以上であった。このことから、租税についての正しい知識・理解を深めることが必要であり、国民こそが税の使い道を決める国会議員を選ぶ権利があるのだという主権者としての自覚の芽生えを促す工夫した手立てが求められるだろう。

次に質問5～7では、生徒の税への認識や考え方を確認した。大半の生徒が「納税は自分たちの生活のため必要であると」考えている一方で、「決まりだから」と法的な側面から仕方なく納税をしなければならないという生徒や「稼いだお金は自分のために使いたい」と願う生徒も一定数確認できた。税への考え方は人それぞれであるが、政府の税金の利用の仕方に疑問を抱いている生徒は少なく、自分たちのために税金が使用されているという認識をしている生徒が多かった。質問11, 12では日頃の生徒らの租税に関する興味・関心を確認したが、家族と租税に関する話をする生徒は少なく、メディアが発信する情報にも関心がない生徒がほとんどであった。

以上の分析結果から、次のような流れで租税に関する授業や取組を展開していく。

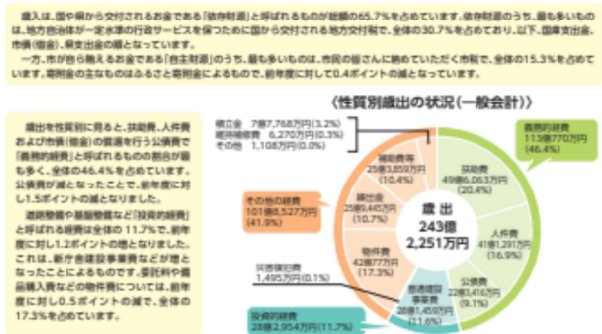
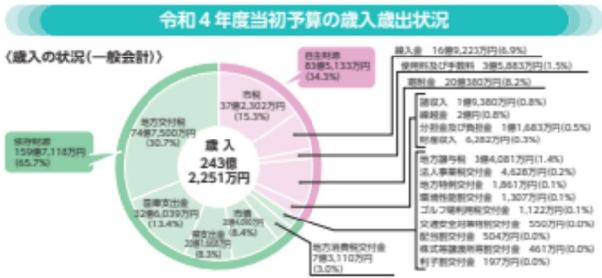
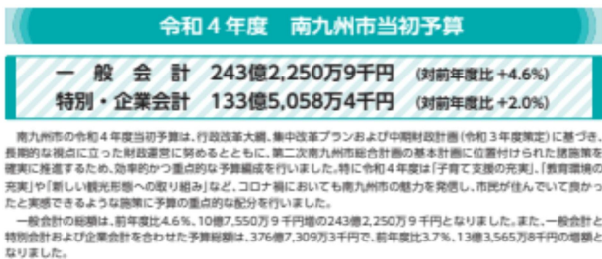
- ・ 社会科の授業を通して、租税に関する基本的な知識を身に付けさせる。
- ・ 集められた税金の使い道がどのように決められ、どのように使用されているのかを理解させる。(財政に関する正しい理解)
- ・ 国会、内閣が予算案に関わることを理解させたくうえで、国会議員を選ぶ選挙は国民の意思によって行われていることを理解させる。
- ・ 若者の投票率が低い選挙の現状やその理由を理解させ、選挙の意義や役割について考えさせる。
- ・ 模擬選挙を通して、選挙のしくみを理解させ、自らの一票を投じる経験をさせる。
- ・ 租税への興味・関心が高められるよう、教科外においても租税を取り上げた取組を実践していく。

2 社会科授業での実践

ア 税に関する授業計画・授業実践(地方自治と住民の参加・模擬選挙)

租税や選挙と関連のある内容・題材について年間指導計画の中から抽出し、整理した。^{*1}

題材名	学習のねらい
国民の代表を選ぶ 選挙①	○選挙の意義と仕組みについて理解し、選挙が果たす役割について考える。 ○日本の選挙制度の特徴について理解する。
18歳選挙と私たち	○18歳選挙権が実現した背景とその意義について理解し、民主的な選挙権の行使について考える。 ○投票率の低下や一票の価値の地域による格差など、選挙をめぐるさまざまな課題について考える。
国会の決定は国民の意思	○憲法で定められた国会の地位と、国会の種類や仕組みについて理解する。 ○国会議員の具体的な飼う銅や仕事を通して、議員が国会で果たす役割について理解を深める。
国会は唯一の立法機関	○法律の制定を中心とした国会のさまざまな仕事や、国会での審議の仕組みを理解する。 ○国会議員の具体的な活動や仕事を通して、議員が国会で果たす役割についての理解を深める。
行政をまとめる内閣	○首相や閣内閣大臣の仕事や各行政機関、公務員の仕事から、内閣が果たす役割を具体的に理解する。 ○我が国の議院内閣制のしくみとその意義について、アメリカの大統領制との比較を通して理解を深める。
暮らしを支える行政サービス	○地方自治体の仕事とその仕組みについて、具体例を通して理解を深める。 ○各地でのさまざまな住民投票の実施や、特色ある条例の作成などから、住民が持つ権利とその意義について理解する。
地域の暮らしを支えるために	○地方財政の現状を理解し、地方における財源の確保の重要性に気づく。 ○地方財政が抱える課題を理解し、将来の地域社会のあり方とそこで果たす地方財政の役割について考える。
財政が果たす三つの役割	○第三の経済主体として、政府の経済活動を表す財政の仕組みを理解し、経済の三主体への理解を深める。 ○資源配分、所得の再分配、経済の安定化という三つの役割を、具体的にとらえる。
税金を納めること	○税金の種類とそれぞれの特徴について、身近な暮らしの中から具体的に理解する。 ○租税には効率性と公平性の問題があることに気づき、納税の意義について考える。
税金の行方と国の借金	○政府の収入(財源)と支出の内容や、特徴について理解する。 ○財政赤字など政府が抱える課題とその取り組みについて理解し、今後の財政のあり方を考える。
国民の代表を選ぶ 選挙②	○衆議院選挙の模擬選挙を通じて、選挙の仕組みや投票の方法を理解する。 ○投票を通じて、将来、日本を支える主権者として必要なことについて考えさせる。
身のまわりの社会保障制度	○社会保障制度の意義と、暮らしの中で果たす役割について具体的に理解する。 ○高齢化の観点から、現在の日本の社会保障制度が抱える課題を考える。
互いに助け合う社会	○日本の社会保障制度の目的と、その仕組みや特徴を理解する。 ○社会保障制度の中でも特に社会保険と、生活保護の制度がもつ役割についての理解を深める。



(目的別歳出の状況(一般会計))

区分	令和4年度	令和3年度
民生費	77億2,279万円(31.9%)	78億1,394万円(33.6%)
総務費	43億9,668万円(18.1%)	39億4,836万円(17.0%)
衛生費	22億4,815万円(9.2%)	20億3,738万円(8.8%)
公債費	22億3,416万円(9.2%)	22億9,773万円(9.9%)
教育費	21億6,307万円(8.6%)	17億2,241万円(7.4%)
土木費	16億8,116万円(6.9%)	15億6,437万円(6.5%)
農林水産費	15億5,227万円(6.4%)	17億2,014万円(7.4%)
消防費	11億4,116万円(4.7%)	11億4,114万円(4.9%)
理工費	3億1,182万円(1.3%)	1億8,970万円(0.8%)
議会費	1億6,316万円(0.7%)	1億6,180万円(0.7%)
雑費	7億7,788万円(3.2%)	6億9,189万円(3.0%)
予備費	1,000万円(0.0%)	1,000万円(0.0%)
災害復旧費	1,495万円(0.1%)	608万円(0.0%)

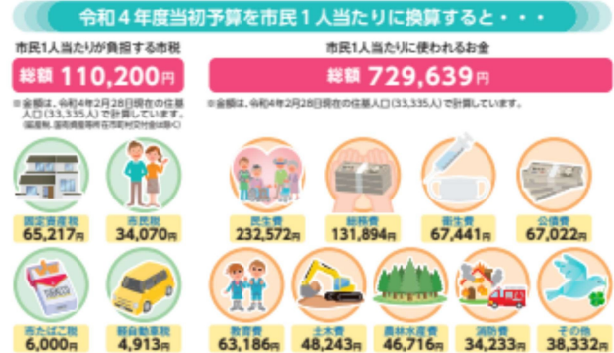
歳出を目的別にみると、最も大きな割合を占めるのが、市民の皆さんが安心して暮らすための福祉の充実などに使われる民生費です。前年度に比べて1.1ポイントの減で、全体の31.9%を占めています。

次に多いのは総務費で全体の18.1%を占め、前年度に比べて1.1ポイントの増となりました。新庁舎建設事業費などの増によるものです。

以下は衛生費、公債費、教育費、土木費、農林水産費、消防費、雑費の順となっています。

会計別の当初予算額

区分	令和4年度	令和3年度	増減額	増減率
一般会計	243億2,250万9千円	232億4,700万円	10億7,550万9千円	4.6%
特別会計	118億7,210万円	116億9,660万円	1億7,550万円	1.5%
国民健康保険事業特別会計	56億9,700万円	56億7,700万円	2,000万円	0.4%
後期高齢者医療事業特別会計	6億4,670万円	5億9,920万円	4,750万円	7.9%
介護保険事業特別会計	55億2,840万円	54億2,040万円	1億800万円	2.0%
企業会計	14億7,848万4千円	13億9,383万5千円	8,464万9千円	6.1%
水道事業会計	11億3,786万4千円	10億3,743万3千円	1億43万1千円	9.2%
公共下水道事業会計	2億2,887万4千円	2億3,409万1千円	△521万7千円	△2.2%
農業集排水事業会計	1億1,774万6千円	1億2,231万1千円	△456万5千円	△3.7%
合計	376億7,309万3千円	363億3,743万5千円	13億3,565万8千円	3.7%



*1 『中学社会公民とともに生きる』教育出版、「年間指導評価計画」を参照

「暮らしを支える行政サービス」「地域の暮らしを支えるために」の授業では、自らの地域の地方財政の現状を把握させるために、令和4年度南九州市当初予算^{*2}を読み取る作業を行った。そこから、南九州市の歳出と歳入の特色や課題について考える活動を実施した。生徒は、歳入のグラフから自主財源の割合が低いことや、依存財源の割合が高いこと、依存財源の多くが地方交付税や国庫支出金など国から受け取る財源で支えられていることを読み取っていた。また、自分たちが学校で使用しているタブレット等のICT関連の機器の推進に力を入れていることにも注目していた。

租税に関する基本的知識や国会、内閣の仕事内容を学習した後に「国民の代表を選ぶ選挙②」の授業では模擬選挙を実施した。授業前に第50回衆議院議員総選挙も実施されており、租税、財政、国会、内閣等を実際の選挙の状況も関連付けて授業を進めることができた。

若者の投票率が低い現状を伝えたくて、生徒らに「なぜ投票に行かないだろうか」と問うと、資料1(P.10)のような回答があった。やはり「政治に興味が無い」「投票に行っても何も変わらない」と政治的無関心を示す生徒が多くいる一方で、「誰に投票すればいいのかわからない」と投票の意志はあるものの政党や立候補者について詳しく知らない生徒も多かった。そこで、衆議院選挙総選挙後に、実際の政党や立候補者の公約^{*3}を参考にしながら、自らが投票したい政党や立候補者を決めさせ、各学級で模擬選挙をすることで選挙に対するイメージを少しでも変える手立てを行った。

実際の模擬選挙では投票したい政党を決定するためにタブレットを利用して「選挙マッチング」^{*4}を行った。また、小選挙区制における立候補者を決定するために各候補者の「選挙公報」を配布し、各候補者の公約を確認させた。生徒は、自分の理想とする社会を実現したり、自分の考えに近かったりする政党や候補者を真剣に選択し、投票する姿がみられた。投票後には、学年の結果を集計し、フィードバックを行った。実際の投票結果と自分たちの学年の結果が変わることもあり、政治に対する興味・関心を示す生徒も多かった。

【模擬選挙を体験した生徒の感想】～一部抜粋～

- ・ 私は、最初は私が投票したからと言って変わらないと思っていたけど授業を受けて投票する大切さを学びました。なので、選挙権をもったらしっかり投票に行こうと思います。
- ・ 選挙に興味がなく行かないだろうなと思っていたけど選挙に行ってみようかなと興味が出た。
- ・ 選挙はそんなに難しくなくて行って自分の考えを示すことに意味があるのでしっかり投票に行こうと思いました
- ・ 選挙権を取得できる年齢になったら自分にピッタリな人を選んで、なるべく選挙に行けるようにしていきたいです。
- ・ 選挙に行ける年齢になったらしっかりと行こうと思った。授業でもした選挙ドットコムなどを使いたいなおもいました。
- ・ 選挙をする歳になったら公約などを見て自分たちにとってよりよくなる政治をしてくれる人に投票したい。

イ 財政教室(令和6年10月18日5・6校時)

九州財務局鹿児島財務事務所と知覧税務署から職員を講師に招いて、3年生(104名)を対象に財政教室が実施された。

初めに、財務事務所職員から「日本の財政を考えよう」というテーマのもと、国の財政の現状やこれからの課題について講話をしていただいた。その後、5～6人のグループに分かれ「財務大臣になって予算をつくろう」という国家予算を作成するシミュレーション

*2 『広報 南九州 令和4年4月号』より引用

*3 ここでは本校区が該当する鹿児島2区の選挙公報を使用し、模擬投票を実施している

*4 「第50回衆議院議員総選挙 投票マッチング」選挙ドットコム<https://shugiin.go2senkyo.com/votematches/>

活動をタブレット内のソフトを用いて実施した。

予算案の作成に関しては、国の現在の歳出・歳入をもとに「どんな日本の社会にしていきたいか」をグループで考え、歳出・歳入の割合を各班で検討した。そのうえで「なぜそのような予算案を作成したのか」の理由も考えさせ、予算案を説明するときの根拠も示せるよう準備を行った。



講義を聴く様子



一億円のレプリカに興味を示す生徒



タブレットを用いて予算案を話し合う活動の場面



予算案を発表する様子

グループワークシート

1. テーマを決めよう!

私たちは「子育て世代を支援」が社会の課題だと考えました。

2. 理想の予算を考えよう!

タブレットを操作しながら「増減」「理想の予算」「増減の理由」欄を記入しましょう。

この予算のポイントとなる項目(できれば歳入・歳出それぞれ3つ以内)に★をつけましょう。

全て
決めなくても
OK!

★	項目	R6年度予算	増減	理想の予算	増減の理由
歳出	年金	13兆円	(10)%増加・減少・現状維持	12兆円	若い世代への負担に当てる。
	医療	12兆円	()%増加・減少・現状維持	12兆円	現在でも充実しているため。
	介護	4兆円	()%増加・減少・現状維持	4兆円	現在でも十分である。
	子ども・子育て	3兆円	(100)%増加・減少・現状維持	6兆円	子育て世代を増やすことで人材の確保を図る。
	生活保護など	6兆円	(10)%増加・減少・現状維持	5兆円	削減も検討したいが、削減は難しい。
	地方への交付金	18兆円	()%増加・減少・現状維持	18兆円	現状を維持したい。
	防衛	8兆円	(30)%増加・減少・現状維持	6兆円	現在でも十分である。増やしたがる世代の負担に当てる。
公共事業	6兆円	()%増加・減少・現状維持	6兆円	現状でも十分である。	
教育	4兆円	(30)%増加・減少・現状維持	5兆円	教育費を削減するのではなく、質の向上やデジタル化を進めたい。	
その他	12兆円	()%増加・減少・現状維持	12兆円	現状でも十分である。	
	国債発行(借金返済)	27兆円		27兆円	
	合計	113兆円	→	113兆円	

★	項目	R6年度予算	増減	理想の予算	増減の理由
歳入	所得税	18兆円	(5)%増加・減少・現状維持	19兆円	少し増額を減らすため。
	消費税	24兆円	()%増加・減少・現状維持	24兆円	十分とされている。
	法人税	17兆円	(5)%増加・減少・現状維持	18兆円	少し増額を減らすため。
	その他の徴収	11兆円	(30)%増加・減少・現状維持	14兆円	酒物などに必要なのは増やしたがる。
	税以外の収入	8兆円		8兆円	
	国債(新たな借金)	35兆円		30兆円	
	合計	113兆円	→	113兆円	

3. 予算の総額を確認しよう!

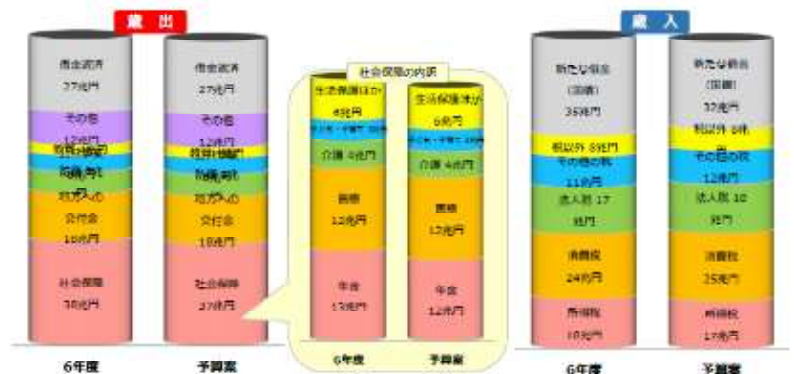
令和6年度予算 113兆円 → 理想の予算 113兆円 となり、 兆円 増加・減少・現状維持

4. 新たな借金はいくらになった?

令和6年度予算 35兆円 → 理想の予算 30兆円 となり、 兆円 増加・減少・現状維持

予算案を作成するワークシート

歳出										1班		
社会保障	年金	医療	介護	子ども・子育て	生活保護など	地方への交付金	防衛	公共事業	教育	その他	借金返済	増減
3%増	1.0%減	現状維持	5%減	5%増	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	27兆円	増減
歳入												
所得税	消費税	法人税	その他の徴収	税以外の収入	国債発行	予算総額						
5%増	5%増	5%増	1.0%増	現状維持	(27兆円)	6年度	113兆円	予算案	112兆円	予算案では借金の総額が 5兆円 増えます		



生徒がタブレット上で作成した予算案

振り返りシート

()組 ()番 氏名 ()

1. 以下の①～⑤の質問項目について、あてはまるものに○をつけてください。

(A: たいへんそう思う B: そう思う C: どちらでもない D: あまりそう思わない E: まったくそう思わない)

- ① 授業のスピードはちょうどよかった。 (A) B C D E
- ② 授業はわかりやすかった。 (A) B C D E
- ③ グループワークで財政についてよく考えることができた。 A (B) C D E
- ④ アドバイザーの助言が役立った。 A (B) C D E
- ⑤ 教える方 教材に工夫が感じられた。 (A) B C D E

2. 日本の財政に対するイメージについて、あてはまるものに○をつけてください。

(A: たいへんそう思う B: そう思う C: あまりそう思わない D: まったくそう思わない)

- ① 財政について関心がある。 A B (C) D
- ② 財政は自分にとって関係のあることと感じる。 (A) B C D
- ③ 財政について、家族・友人等と話をしてみたい。 (A) B C D

3. この授業で、勉強になったところはどこですか。1つ選んで○をつけてください。

- (A) 公共サービスについて
- (B) 日本の財政
- (C) グループワークを通じた意見交換
- (D) その他 (内容: _____)
- (E) 勉強になったと思ったところはなかった

それはどうしてですか

理由: 公共サービスは知らないところだったのでみんなの税金が使われているということを知ることができたから。

4. 日本の財政に関して、クイズに答えてみましょう。

次の文章を読んで、正しいと思うものを選んでください。
(テキストを見ずに挑戦してみてください!)

- ① 税収と歳出の関係として、正しいものを選んでください。
A 税収の方が多い (B) 歳出の方が多い C 変わらない D 分からない
答え: B
- ② 国の歳出の内訳の中で、社会保障に次いで多くの割合を占めているものを選んでください。
(A) 地方への交付金 B 教育 C 借金の返済と利息 D 分からない
答え: A
- ③ 国の歳出に占める社会保障費の割合は、どの程度でしょうか。
A 5分の1 (B) 4分の1 C 3分の1 D 分からない
答え: B
- ④ 社会保障費が増えた理由は、何でしょうか。
A 子どもの割合が増えた (B) お年寄りの割合が増えた C けが人が増えた D 分からない
答え: B

5. この授業を受けての感想を自由に記載してください。

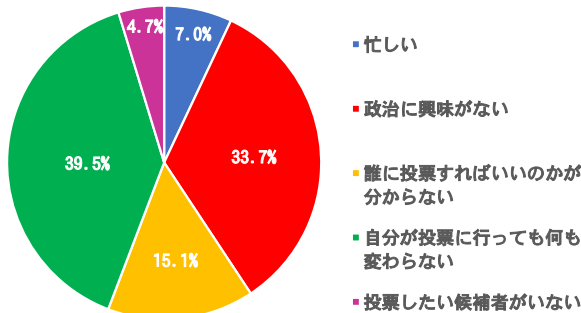
少子高齢化が進んでいる日本では、たくさんの知らない問題が起きているということを知ることができました。これからの私たちの将来のために大切なことなのでこれから少しずつ財政について知っていくと思いました。今日は本当にありがとうございました。

財政教育振り返りシート

【財政教室を終えての生徒の感想】～一部抜粋～

- ・ 財政の意味があまりわからなかったけれど、この授業で国民のみんなでお金を出し合ってみるの生活に役立っていきように使っていくことだとわかった。歳出と歳入があまりわかっていなかったが、歳出が多くて国の借金が膨らんでいることが分かった。国は歳出と歳入を見直しているが、もう少し見直すべきだと思った。
- ・ 今の日本の財政状況を詳しく知れてよかった。普段あまり財政について考えることはないから、とても良い機会になった。また、これから暮らすうえで大切だから、もう少し関心をもとうと思った。
- ・ 特に、グループワークが楽しかった。発表することで、他のグループの意見が聞けて、自分たちの意見と違うところがたくさんあって面白かった。もっと他のグループの意見も聞いてみたい。説明もとても分かりやすく、もっと調べてみたいと思った。
- ・ 日本がかなり借金をしていることは知っていたけれど、毎年足りない分を借金するのはよくないと思った。自分たちで考えてみたけれど、国債をなくすことが難しく、仕方ないことなのかなとも感じた。これから政治に関わるようになっていくので、頑張りたいと思った。

先日の衆議院議員選挙や鹿児島市長選挙など、選挙の投票率はまだまだ低いのが現状です。若者が選挙に行かない理由として、最も考えられるものを一つ回答してください。



資料 1



「投票マッチングサイト」



『選挙広報』

ウ 租税教室(令和6年11月7日・令和7年6月5日)

知覧税務署および南薩地域振興局から講師を招き、3年生を対象に租税教室が実施された。はじめに、租税教育教材『令和6年度版わたしたちの生活と税』を用いて、租税に関する様々な説明を受けたり、クイズに挑戦したりした。その中で「ジュースやお菓子の消費税は10%であるか？」の問いに、多くの生徒が「そうである」と回答したが、軽減税率の話聞いて驚いている生徒も多かった。その後、DVD「アナザーワールド」を視聴し、「もしもこの世の中に税金がなかったら」というテーマのもと、税金の重要性について深く考える機会を設けることができた。

【租税教室を終えての生徒の感想】～一部抜粋～

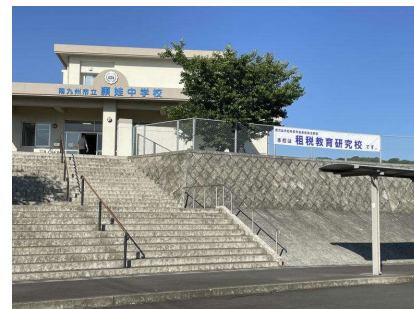
〈令和6年度実施分〉

- ・ 税金がなかったら、私たちの生活に影響が出て、不便になることを改めて知ることができた。今は、消費税しか払っていないが、将来は所得税や住民税などをしっかりと払って、自分たちの生活をよりよくしたいと思った。
- ・ 消費税の種類が8%と10%で、飲食物の消費税は8%、その他は10%であることを初めて知ることができた。
- ・ 初めは、税金はなくてもいいと思っていたけれどDVDを観て、税金がなくなると学校に行けなかったり、火事になったりしても消防車や救急車を呼ぶことにもお金がかかってしまうことを知り、税金の大切さを知ることができてよかった。
- ・ 今まで税金について詳しく知らず、消費税や法人税などをなんで払ってばかりなんだろう、また年金も減っていき、どうなるのだろうと思っていたけれど、税金がなければ学校にも行けないし、道路や橋も整備されないので、逆に損になってしまうことを知った。まだまだ知らない頃の方が多いので、不満ばかり思うのではなく、税金についてより詳しく知り、よりよい社会にしていきたい。



〈令和7年度実施分〉

- ・ 自分達身の周りにたくさんの税がたくさんあることをたくさん知ることができてよかった。
- ・ 税は自分たちが国家の中で、安全で健康な最低限の生活を送るための約束だということ知ることができた。
- ・ 地域のいたるところで税金が使われていて、税金に助けられる場面が多いということが分かった。
- ・ いつも僕たちが、当たり前で生活しているのは、税金を納めているおかげなんだととても実感しました。
- ・ 「アナザーワールド」という動画を見て、最初の方は、税を納めることはとても大変なんだなと思ったが、見終わってから、税を納めないと世の中が大変なことになるんだなと怖くなりました。
- ・ 税についてあまり知らなかったが、身近にある税や私達に関わっている税があることなど動画や講師の先生の講話、資料などで詳しく知ることができました。
- ・ 消費税だけでなく、自分の身の回りにはたくさんの税が関わりあっていて、その税が自分たちの暮らしを豊かにしていることがわかった。税の大切さを知った。



エ 「税についての作文」「税の標語」「俳句講演会」

3年生を対象に夏休み課題として「税についての作文」の募集を行った。税に関する授業が2学期に計画されていたため、各自がタブレットで税に関する情報を入手しながら作文に取り組んだ。それぞれが自らの知っている税について調べたり、身近な税に関する疑問を追究したりすることで、2学期以降の租税に関する授業への興味・関心を高めるきっかけにすることができた。

「税の標語」は全学年を対象に、夏休みの課題の一つとして取り組んだ。旅行や買い物など、生活のさまざまな場面で税に関わる機会も増え、家族の中で話題となり、標語づくりのヒントにつながったようである。

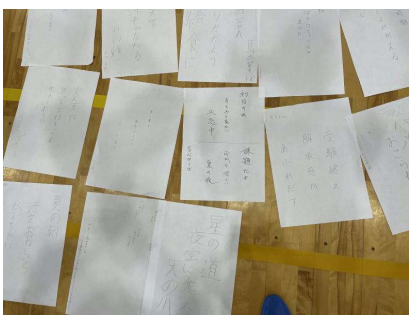
また、国語科を中心に「俳句講演会」を2回ほど実施し、俳句作りについて学ぶ機会を設けた。講師の方から示された課題の沿って、自分の思いを17文字にまとめる作業は、税に関する課題に気づき、自分なりの考えをまとめていく上でも効果的であるを考え、週末課題等で定期的な取組を行った。

- ・税金は 明るい未来 支えてる
- ・税金で 笑顔あふれる 次の未来
- ・税金で つながる命 助け合い
- ・人々の 暮らしを支える 消費税
- ・税金で 安心安全 守られる
- ・支え合う 世代を問わず 税金で
- ・税金で 日本の未来と 安心を
- ・税金は 日本の未来に 繋ぐもの
- ・税金で みんなが笑顔 未来も笑顔
- ・税金で 繋がる生活 社会の輪
- ・税金で 明日の笑顔 守りたい
- ・税金で つなぐ命と みんなの心
- ・その税が つなげる未来を あなたにも
- ・考えて 知っていききたい 税のこと
- ・税金で 豊かな日本 つくろうよ

確認	いう	収	お	ひ	フ	豊	や	安	バ	る	活	い	中	お	か	す	年	未	南	九	州	立	川	中	学	校	名	氏	姓
な	ち	獲	茶	と	て	か	公	全	税	る	い	で	学	年	と	し	生	来	立	立	川	中	学	校	名	氏	姓	年	級
ば	か	獲	農	と	て	か	公	全	税	る	い	で	学	年	と	し	生	来	立	立	川	中	学	校	名	氏	姓	年	級
ら	か	獲	農	と	て	か	公	全	税	る	い	で	学	年	と	し	生	来	立	立	川	中	学	校	名	氏	姓	年	級
し	か	獲	農	と	て	か	公	全	税	る	い	で	学	年	と	し	生	来	立	立	川	中	学	校	名	氏	姓	年	級
て	か	獲	農	と	て	か	公	全	税	る	い	で	学	年	と	し	生	来	立	立	川	中	学	校	名	氏	姓	年	級

【税の標語 〈一部抜粋〉】

【税についての作文】



【第1回俳句講演会】

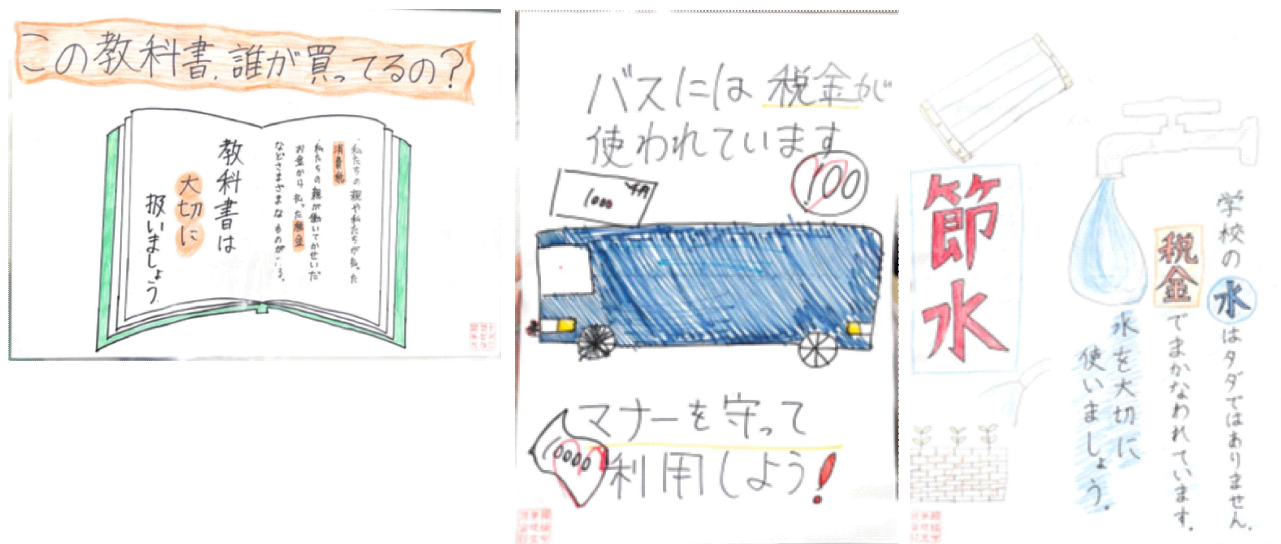


【第2回俳句講演会】

3 生徒会活動等と連携した租税教育の実践

ア 税に関するポスターの作成

社会科での授業のみならず、生徒会活動と連携した租税教育を実施した。本校では、毎月の月末に専門部活動というすべての生徒が自らの専門部に関わる活動を実施する時間が設けられている。今回は、生徒会本部の活動として「学校に関係する税にはどのようなものがあるだろう」というテーマで話し合いを行った。そして、全校生徒に身近な学校生活にも税金が使用されていることを理解してもらえるよう、各クラスで税に関するポスターを作成し、「税について考える週間」にあわせて掲示を行った。



【生徒会本部が作成した学校の税に関するポスター】

イ 税に関する書籍コーナー・税についてのクイズコーナーの設置

司書教諭とも連携し、「税について考える週間」にあわせて税に関する書籍コーナーや税についてのクイズコーナーを図書室前に設置した。多くの生徒が利用する図書館前に配置することで、一人でも多くの生徒が税に対しての本を手にしたり、興味・関心をもったりすることができるように工夫を行った。



【図書室前に設置された税に関するコーナー】

4 学力向上の取り組み

校区内小中連携の学力向上実践事項として、南日本新聞社のアプリ「すくーる373る」のワークシートを活用し、社会情勢や諸問題に目を向け、社会への関心を高め、自分の考え・意見をまとめることで、読解力や表現力を培う取り組みを進めている。この中で、税にまつわる内容も取り上げ、ペア、グループ、全体で意見交換を行うことで、税を身近なものとして捉えられるよう取り組んでいる。

社説

消費税減税の是非

消費税減税の是非が、夏の参院選の争点に浮上している。石破茂首相が減税を見送る方向で調整に入った一方、野党各党は公約に盛り込む見通しだ。終りの見えない物価高の中、家計の負担を減らす政策への国民の期待は高い。幅広い人が恩恵を受ける消費税減税を行わないならば、ほかどんな経済対策があるのか。一方、減税で社会福祉の重要穴をどう埋めていくか。各党の主張には重要な論点がある。

国民の暮らしを守ることに、持続可能な社会保障制度を特に引き継ぐことと軽重はない。各党は、政策の負の面も明確に示さないと、責任ある議論を進めなければならない。消費税減税は年々、介護、医療、子育て支援などに充てられていく。2024年度は税収増非増超が見込まれ、うち20基程度が使われる。残り は自治体の行政サービスに回される。

日本維新の会は、このままのペースで日本維新の会は、このままのペースで

() 中学校(3)年() 組 みよし
氏名()

【問1】見出しの空欄には、参議院議員選挙の争点になると予想されることががら入りです。記事中に8文字で表現されている語句を見出し用に1文字削減し、7文字で答えましょう。

消費税減税の是非

【問2】消費税の税収は、主にどのようなことに使われていますか。あてはまる項目を下から全て選びましょう。

防衛 年金 教育 子育て支援 農林水産業 医療 介護
(年金、医療、介護、子育て支援)

【問3】国民が消費税減税を期待する理由としてあてはまらないものを次のア〜ウから一つ選びましょう。

ア 社会保障サービスが低下し、弱い立場の人にしわ寄せがいくのを避けることができるから。
イ 消費税の負担感が大きいとされる所得の低い人ほど減税の実感を受けやすいから。
ウ 消費税減税により食料品の支払額が目に見えて下がるのは、物価対策としてもわかりやすいから。

【問4】消費税減税を石破茂首相が見送っている(2025.5.17時点)のはなぜですか。その理由を記事中の語句を使って答えましょう。

(新たな財源の確保が困難と判断したため)

【調べてみよう】消費税減税について、各政党がどのような政策を打ち出しているか調べてみよう。

各党は負の面も明確に

首相が見送りを決めたのは、これらに代わる新たな財源の確保が困難と判断したためだ。一旦減税を断念すれば、消費税の負担感が大きくなり、所得の低い人ほど減税の実感を受けやすくなる。実現すればメリットがある。日々の食料品の支払額が目に見えて下がるのは物価対策としても分かりやすい。問題は一度下げた税率を簡単に元に戻すのは政治的に容易でない点だ。期間延長を併用された場合、赤字国債に頼ることにならないか。借金が1300兆円を超す国の財政の健全化が遅ればツケは特異世代に回る。

消費税減税の議論を閉ざしてはいけない。国民が損んできた法人税や余剰所得課税の負担増とセットで税制のゆがみを是正し、社会保障費など歳入増新の会は、このままのペースで

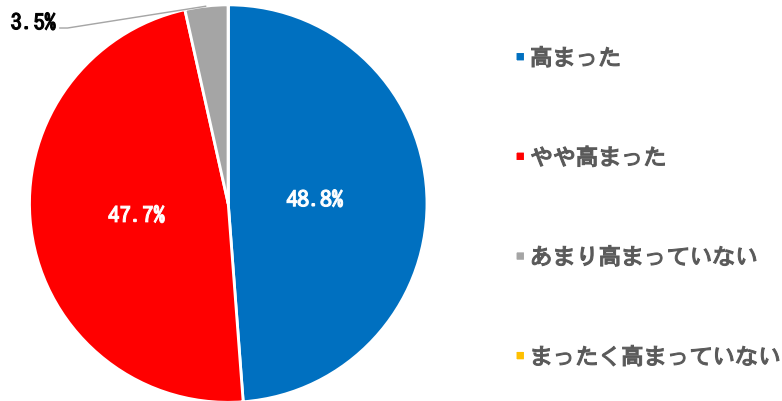
2025-5-17(土)

2025年5月17日付5面

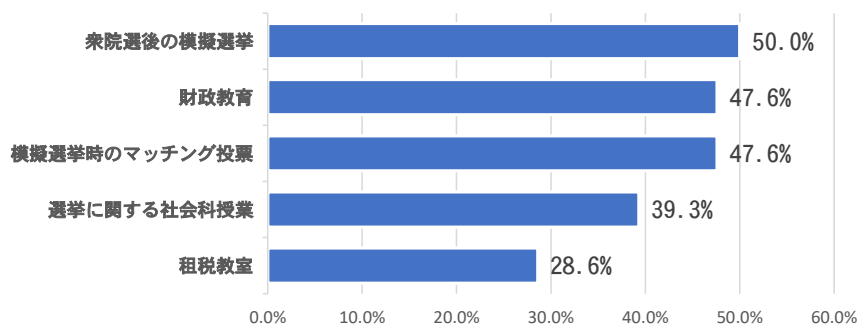
5 事後アンケートの実施・結果

税や選挙に関する社会科授業、財政教室、租税教室をすべて終えた後に3年生を対象に事後アンケートを実施した。

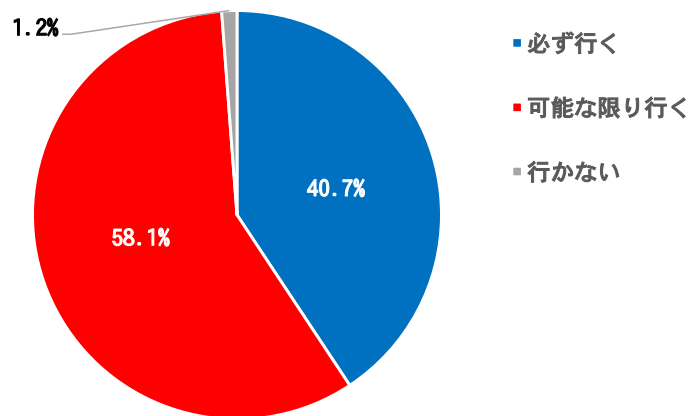
質問1 あなたは2学期に実施された授業や講座を通して、選挙に関する関心・意欲が高まりましたか。



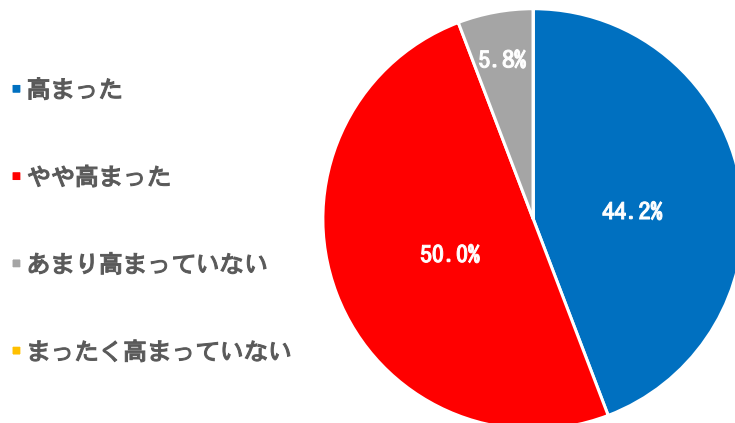
質問2 1で「高まった」「やや高まった」と回答した人に質問です。2学期に実施された授業や講座の中で、印象に残っているものを教えてください。



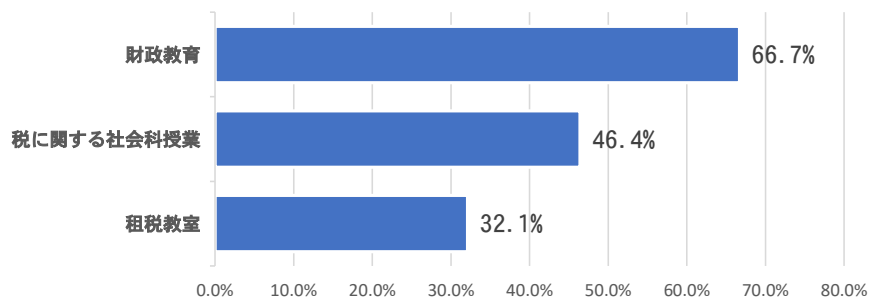
質問3 あなたが選挙権をもつ年齢になった際、あなたは投票に行きますか。最も近いものを一つ選択してください。



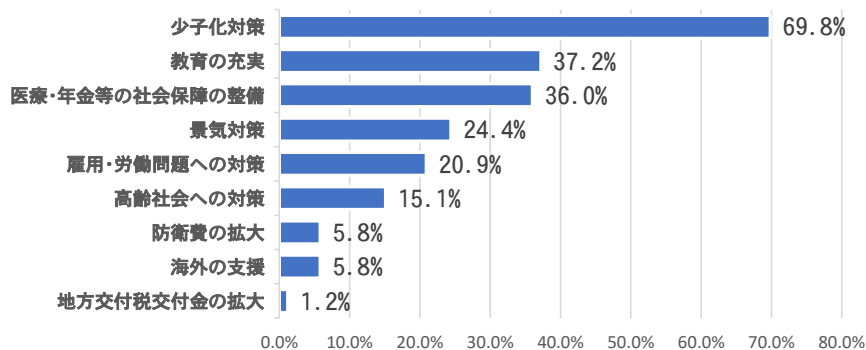
質問4 あなたは2学期に実施された授業や講座を通して、選挙に関する関心・意欲が高まりましたか。



質問5 4で「高まった」「やや高まった」と回答した人に質問です。2学期に実施された授業や講座の中で、印象に残っているものを教えてください。



質問6 税金に関して、学んできたことを踏まえて、今後の日本社会でどのようなことに税金を使ってほしいと考えますか。次の選択肢から2つ選びなさい。



質問7 公民の授業で学習した選挙や税金についての感想やこれから先の人生で生かしていきたいことなどを自由に記述してください。
(一部抜粋)

- ・ 選挙の大切さについてよく理解することができた。税金の納める意味についても深く理解することができた。
- ・ 私は、最初は私が投票したからといって変わらないと思っていたけど授業を受けて投票する大切さを学びました。なので、選挙権をもったらしっかり投票に行こうと思います。
- ・ 選挙や税金についての、知識があるだけで、人生において得することは多いなと思いました。
- ・ 消費税が上がると不便になるけど消費税がなくなったときにあたり前だったサービスなどがなくなることも不便なので悪いことばかり言わずに社会の現状を受け止めて良くするには私たちは何をすればいいのか考えたい。
- ・ 自分たちが払った税金を、自分にとって1番いい使い方をしてもらえるよう、選挙には絶対に行こうと思った。
- ・ 選挙は自分の国の代表を決めるものなので選挙権が与えられたら積極的に行くようにしたいと思いました。
- ・ これからの日本を作っていく世代だから、選挙や税金についてもっと理解していきたいと思った。
- ・ これからの人生では必ず税にふれるので正しい情報をみにつけようと思った。
- ・ 公民の授業を通して最初は、いやいや勉強していたけどどんどん勉強していくうちにどんどん新しいことを知りたいという気持ちになりどんどんできるようになりました。特に財政教室では、自分たちで税金の使い道を決める体験をし、とても財政って面白いなと思いました。大人になると公民との関わりが増えてくると思います。
- ・ 公民の知識はこれからもたくさんで使って行ってためになるのでこれからも勉強をしていきたい。
- ・ 選挙に行くことがどれだけ大切なことか理解することができました。税金は私たちの将来に関わってくるものだと思うので今のうちからしっかりと考えていきたいと思いました。
- ・ 選挙アプリを活用したり、税金のことについて正しい知識を身につけたりして、政治に対する関心を高めたい。
- ・ 日本には思ったより税金があってびっくりした。選挙では自分の一票で変わらないだろうなど思わずしっかり選挙に行きたいなと思った。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

本研究の成果を、事後アンケートの結果や生徒の感想をもとに分析していく。

事後アンケートの結果からもわかるように、社会科の授業や財政教室、租税教室等を通して多くの生徒が選挙や税に関する興味・関心を高めることができた。これは、これまでの社会科の授業では、基本的な知識の習得に終始することが多かったことに対し、それらの知識を国や地域の現状をもとに課題を考えたり、これからの日本や南九州市について考えたりする活動を定期的実施できたことが大きな要因になったのではないかと考える。そのなかで、財政教室や租税教室を開催することで、専門家による詳しい講話を取り入れることができたことも生徒たちにとっては、貴重な機会になった。

また、選挙と租税を関連させて生徒に考えてもらうために、財政の仕事に大きく関わっているのが国会、内閣だと理解させたうえで、実際の衆議院議員選挙後に模擬選挙を実施したことも興味・関心を高めることにつながった。近年の若者の投票率の現状、投票に行かない理由と同様に本校の生徒も初めのうちは選挙に興味を示す生徒が非常に少なかった。しかし、タブレットや選挙公報を使用しながら政党や立候補者に投票する経験を通して、選挙に対する固定観念やイメージを変えることもでき、将来は進んで選挙に行き、自分の意思を政治反映させたいと願う生徒も多くみられた。

社会科の授業だけでなく、夏休み課題として税の作文に取り組みせたり、生徒会と連携し

て税の作文を作成したり、税に関する書籍コーナーを設けたりするなど、学校のあらゆる場面で税に関わる機会を作ることもできた。より多くの生徒が、税に関する取組に関わったり、目にする機会が増えたりしたことで、租税の大切さを身近なところから理解することができたと考える。

租税に関する授業を充実させ、模擬選挙等を実施したことで、自分たちが納めている税金を有意義に使用してほしい、どのように使用されているのかを詳しく知りたいという生徒も多くみられたことから、租税教育と選挙を関連させて、主権者として必要な考え方や役割を認識させることができただろう。

2 研究の課題

今後の課題としては次の2点が挙げられる。

1つ目は中学校3年間を通じた計画的な租税教育・主権者教育の実施である。今回は3年生を対象として、財政教室や租税教室を実施したが、1・2年次から長期的な計画でより充実した租税教育が実践できれば、更なる成果が得られると考えられる。今回、1・2年生を対象に税に関するアンケートも実施しているため、来年度以降も今回のような実践ができれば、3年間を通じた生徒の変容も確認できると考える。

2つ目は教科を超えた租税教育・主権者教育の実施である。今回は社会科の授業を中心に行ってきたが、他教科においても様々な場面で税や選挙と関わる単元や題材がある。年度当初に教員間で連携を図りながら、教科の域を超えた租税教育や主権者教育の充実が図れれば、より一層充実した取組ができると考える。また、生徒だけでなく教員自身の意識の向上にもつなげることができるだろう。

V おわりに

令和6年度から7年度までの2年間にかけて、鹿児島県租税教育研究委嘱校として、本校の実態を踏まえ「租税教育を通して、税に対する理解と興味・関心を高め、社会を支える一人の主権者としての自覚を芽生えさせ、主体的に社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。」を研究主題として掲げ、研究・実践に取り組んできた。この2年間の取組の成果を基盤として、これからの世界を担う本校生徒たちが、主体的に自ら考え、地域の一員として各々課題解決に取り組み、よりよい社会を目指して生きていこうとする一助になれば幸いである。

最後に、鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、知覧税務署、南薩地域振興局、その他関係機関の方々には、足しげく本校に出向いてくださり、懇切丁寧な御指導と御協力を賜った。本研究を無事に終えることができたことを、心から御礼申し上げたい。